

優秀研究企画賞（富士電機賞）表彰報告

若手育成事業委員会

2014年9月18日（木）～9月19日（金）の両日に、つくば国際会議場（茨城県つくば市）で開催されました2014年会において、2013年度の優秀研究企画賞（富士電機賞）の研究成果の報告として、シンポジウムと講演が行われました。18日の夕刻に開かれた交流会において表彰式が行われ、以下、その概要と受賞者の喜びの声を紹介します。

優秀研究企画賞（2013年富士電機賞）（2組）

- 1) 栗栖 聖（東京大学先端科学技術研究センター・講師）
受賞研究企画：「コンパクトシティとQoL（生活の質）の文脈からみた下町評価」
- 2) 奥岡桂次郎（名古屋大学大学院 環境学研究科・助教）
谷川寛樹（名古屋大学大学院 環境学研究科・教授）
受賞研究企画：「レジリエントな社会基盤形成を目指した日本全土の建設ストックデータベースの構築」

【賞の創設ならびに受賞者選考・表彰経過】

若手研究者による創意ある研究企画の提案や研究発表を支援するため、若手育成事業委員会が設置され、優秀研究企画賞ならびに年会優秀発表賞が2008年度に創設されました。この趣旨にご賛同いただいた富士電機株式会社様より毎年ご寄付をいただき、優秀研究企画賞（富士電機賞）として賞の授与を行っています。これにより、新たな研究テーマの開拓や年会での活発な研究討論などに進展が見られ、若手研究者を核とした学会の活性化が図られています。

優秀研究企画賞（富士電機賞）の選考は、会告にもとづき正会員から応募された研究企画について、環境科学分野における新規性や注目度、社会的有用性、これまでの実績にもとづく発展性などの観点から、若手育成事業委員会優秀研究企画賞選考委員が厳正なる審査を行います。この後、理事会での最終審議を経て、2013年度は2組3名の受賞者を決定しています。受賞者は、計画に沿って研究を実施し、今年2014年会でその成果報告を行ったところ です。

表彰式は2014年会交流会の中で執り行われました。細田衛士会長より受賞各組に表彰状が授与され、激励の言葉が添えられました。

なお、研究課題の円滑な推進を支援する意味を込めて、副賞（20万円）が研究実施に先立って昨年10月に贈呈されています。



優秀研究企画賞（2013年富士電機賞）の2014年会における表彰式風景

優秀研究企画賞（2013年富士電機賞）

受賞研究企画：「コンパクトシティと QoL（生活の質）の文脈からみた下町評価」

受賞者氏名：栗栖 聖（東京大学 先端科学技術研究センター・講師）

略 歴：1973年生まれ

1995年 東京大学 工学部 都市工学科卒業

1997年 東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 修士課程修了

2000年 東京大学大学院 工学系研究科 博士課程修了 博士（工学）

2000年 東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 助手

2006年 東京大学 先端科学技術研究センター 講師 現在に至る



栗栖 聖（くりすきよ）
東京大学先端科学技術
研究センター・講師

成果報告：環境科学会 2014年会講演集, p. 51

報告要旨：

低環境負荷型都市を目指すうえで、人の移動や活動を集約したコンパクトシティの考えが提案されてきている。一方で、特に人口減少と高齢化を迎える日本の都市においては、環境への配慮と共に、地域活力を維持し、人々が暮らしやすい「まち」をいかに形作るが課題となっている。コンパクトシティの概念においても、環境面を重視するに加えて、人々の生活の質（QoL）への貢献可能性が謳われている。このような中で、コンパクトな「まち」が環境面だけでなく、いかに地域活力や QoL に影響するのかわ、定量的に示す研究が求められている。本研究では東京における下町がコンパクトシティとしてあるべき姿を示しているのではないかと、とのアイデアに基づき、これをモデルケースとして取上げた。東京の下町エリアは、防災面から問題点が指摘されることがある一方で、コミュニティの強さや「まち」としての活力の高さが、良い点として評価できる。古くからの居住者が従来型のコミュニティや「まち」としての活力を支えているとも言えるが、マンション族等の新たな流入者も、同様の QoL を享受している様が観察され、「まち」としてのコンパクトな施設配置が高い QoL を形作っているのではないかと推測される。

本研究では、施設配置や交通ネットワークといった基盤設備の配置状況を解析すると共に、そこでの人々の移動特性と暮らしへの評価を調査し、都市基盤のコンパクトさと生活者の QoL との関連性を評価することを最終目標とする。その上で、まずは、東京都荒川区を下町の代表区とみなし、他の 23 区と比較すると共に、車利用が一般的な高崎市を対照地域とし、各地における日常生活に必要な施設の立地状況を解析することを研究目的とした。分析対象施設には、日常利用頻度の高い「スーパー・コンビニ、郵便局、医院・診療所、銀行、理髪店、美容院、軽食・喫茶店、公園」を取り上げると共に、その他複数の施設を対象とした。

荒川区、杉並区、高崎市での日常利便施設へ徒歩でアクセスできる人口割合の結果を見ると、荒川区においては、徒歩で複数種の日常利便施設にアクセスできる人口割合が高くなっていった。荒川区、杉並区においては、7種以上の日常利便施設に徒歩でアクセスできる人口が各区民の5割以上を占めるのに対し、高崎市においては同割合が5.4%に留まる結果が示された。

受賞者からの一言：

コンパクトシティに関連する研究は様々見られますが、本当にコンパクトであることが良いことなのでしょうか。今後 IT の発達に伴い、物理的に提供されるサービスの一部は、インターネット等を介して提供することも可能になるのではないかと、その場合には、あえて物理的にコンパクトであることがもたらす環境負荷削減や行政サービスコストの低減といったメリットは、それ程の価値をもたなくなるのではないかと。そんな自己疑問があります。その中で取ってコンパクトにする意味とは、またコンパクトであるというのはどういうことなのか、それを改めて今考える必要があるように思います。本研究提案は私自身の居住地の持つ雰囲気や「まち」としての特徴から着想を得たものです。歩いていける距離に、病院や日常的な買い物場所や仕事終わりに皆が飲める場所やそんな場が多数あり、道では井戸端会議よろしく立ちどまって会話している人々を日常的に見かけます。祭りの時には、どこからともなく法被を着た老若男女が溢れ出て、そこには、マンション族等の新たな流入者も巻き込んだ強いコミュニティが有り、「まち」としての活気があります。そのような雰囲気はいつい何によってもたらされているのか。単に人口密度だけでは語れない要因があるように思います。本研究はまだその一端をかじっただけのものですが、今後の少子高齢化時代の「まち」がどうあるべきか、またどう進んでいけば良いのかを、皆で改めて考えていく一助になればと思います。

優秀研究企画賞（2013年富士電機賞）

受賞研究企画：「レジリエントな社会基盤形成を目指した日本全土の建設ストックデータベースの構築」

受賞者氏名：奥岡桂次郎（名古屋大学大学院環境学研究科・助教）

略 歴：1984年生まれ

2008年 名古屋大学工学部社会環境工学科卒業

2010年 名古屋大学大学院環境学研究科博士前期課程修了

2013年 名古屋大学大学院環境学研究科博士後期課程修了 博士（工学）

2013年 名古屋大学大学院環境学研究科・助教 現在に至る



奥岡桂次郎(おくおかけいじろう)
名古屋大学大学院
環境学研究科・助教

受賞者氏名：谷川寛樹（名古屋大学大学院環境学研究科・教授）

略 歴：1972年生まれ

1994年 九州大学工学部水工土木学科卒業

1996年 九州大学大学院工学研究科修士課程修了

1998年 九州大学大学院工学研究科博士課程退学

1998年 和歌山大学システム工学部環境システム学科・助手

2000年 九州大学大学院工学研究科博士課程 博士（工学）

2001年 和歌山大学システム工学部環境システム学科・講師

2003年 和歌山大学システム工学部環境システム学科・助教授

2009年 名古屋大学大学院工学研究科・准教授

2011年 名古屋大学大学院環境学研究科・教授 現在に至る



谷川寛樹(たにかわひろき)
名古屋大学大学院
環境学研究科・教授

成果報告：環境科学会 2014年 年会講演集, p.59

報告要旨：

東日本大震災により被災地が失った建設ストックをより詳細に推計し、瓦礫に含まれる物質量を把握するとともに、復興に向け必要な建設資材量を検討した。また、日本全国でも同様の方法で推計を行い今後の対策へ向けたデータの整備を行った。成果として、被災エリアが失った建設ストックマップがあり、行政や研究者、市民に有効に活用されるよう提供することで、レジリエントな社会基盤形成へ向けた議論の基礎とした。

受賞者からの一言：このような賞を頂くことができ、大変嬉しく光栄に思っております。この研究は、2011年3月11日に発生した東日本大震災を受けて、谷川研究室を中心に、多くの学生・卒業生・研究者が携わることで進めてきたものであります。細かい時系列のデータベース構築から、実施調査による被害状況の把握まで、この研究を進めるにあたって多くの方の協力がなければ成し得なかったと、非常に感謝しております。この場を借りて御礼申し上げます。